

研究テーマ	生徒の発達段階や興味・関心を生かした題材の工夫と指導の在り方 — 第3学年「思い出をえがこう」の実践を通して —
-------	---

石岡市立園部中学校・銚田市立旭中学校 教諭 皆藤 伊美子

## I 研究テーマについて

美術科学習では生徒がゆとりをもって楽しく美術の活動にかかわり、学ぶことの喜びを味わい、個性を生かした多様で創造的な活動をすることが求められている。その現実のためには県の指導方針でも「感じ取る力、自分なりのイメージをもつ力の育成」という重点目標のもと「個性を生かした創造的な活動」の努力目標を掲げ、具体化のための取り組みとして生徒の発達段階や興味・関心を生かした題材及び指導計画の工夫をあげている。以上のことから授業の中でいろいろな自然物や人工物も含め、その中からいろいろな感情やイメージを受け取っていることを気づかせること、また、そのような体験を積み重ねることにより美術以外の普段の生活からも何かを感じ取ろうとする姿勢や感じ取る力を育成したいと考えた。そこでそれには授業の題材が大きく関わってくると考え、生徒の実態や地域性を含めながら題材の工夫について実践した。

## II 研究の実際

### 1 題材名 思い出をえがこう

#### 2 題材の目標

- 点描の表現に関心を持ち、意欲的に制作に取り組もうとすることができる。  
(関心・意欲・態度)
- 心に残った場面や印象をまとめ、表現の意図を明確にして表現することができる。  
(発想や構想の能力)
- 点描の特性を学び、思い出の風景を立体的に捉え、表現効果を生かす工夫をして表現することができる。  
(創造的な技能)
- いろいろな作品のよさや楽しさを理解し、表現の工夫を感じ取ることができる。  
(鑑賞の能力)

#### 3 題材について

##### (1) 生徒の実態

美術のいろいろな題材に興味をもって意欲的に取り組もうとする生徒が多い。特に短時間に描くクロッキーなどは熱心に取り組む姿が見られる。

##### 実施アンケート調査結果（3年対象学級38名）

- |   |                                |  |
|---|--------------------------------|--|
| 1 | 美術の授業で好きな課題は何ですか。（複数回答）        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土細工 22名 ・四コマ漫画 13名 ・切り絵 12名 ・立体構成（デザイン）9名</li> <li>・マークのデザイン 7名 ・平面構成（デザイン）4名 ・鉛筆デッサン 4名</li> <li>・風景画 3名 ・ポスターデザイン 2名 ・静物画 2名</li> </ul> |
| 2 | 作品を制作するときに、楽しいなと感じるときはどんな時ですか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成していく様子が楽しいと感じる 12名 ・下描きを描いている時が楽しい 11名</li> <li>・うまく仕上がった時 5名 ・色をぬっている時 5名</li> <li>・構想したものと同じように仕上がった時 3名</li> </ul>                    |

- ・ アイディアがすぐに浮かんで思い通りに描けたとき 2名
- 3 作品を制作する中で、つまづく原因は何ですか。(1番の原因を記入)
- ・ 色塗りがうまくいかない 19名 ・ 構成がうまくいかない 8名
  - ・ 配色計画をたてずに作業をしまい失敗をする 4名
  - ・ 色の選び方がうまくいかない3名 ・ アイディアが思い浮かばない 2名
  - ・ 細かい作業が不得意 2名

今回のような単色で仕上げる作品には抵抗もなく取り組むことができるが、色彩計画を立てて手順よく作業するといったデザインの領域を苦手とする生徒がアンケート調査結果からも見られる。その理由としては、絵の具の使い方が十分に身に付いていなかったり、豊かな表現力をもっている生徒であっても、現状に満足してしまい、より発展的な表現へと挑戦していくことをためらうといった傾向が見られるためである。

(2) 題材観

点描画は比較的短時間で楽しく取り組み、技術的な面でも取り組みやすく、どの生徒にとっても完成度の高い作品が期待できる。特に描写力に劣る生徒であっても十分に楽しめ、美術に対する苦手意識の払拭にも効果的と考える。この題材では白と栗のコンストラスによる構成の美を味わいながら点描画の基本を理解させたい。

(3) 指導観

本題材はアンケートでも関心の高いモノトーンを利用した内容に当たるので比較的意欲・関心は高く、抵抗なく取り組むことができると思われる。しかし、他の題材より長期間の扱いとなるので意欲を持続させるために各自の制作計画を立てさせ、それぞれの進捗で作業できるように制作カードを利用して取り組ませたい。明暗（白黒の割合）については、デッサンの技法を再確認させ、微妙な色合いを点で表現する作業では効果的に技法を活用させたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
点描の表現に関心をもち、意欲的に制作に取り組もうとする。	心に残った場面や印象をまとめ、表現の意図を明確にして表現することができる。	点描の特性を学び、思い出の風景を立体的に捉え、表現効果を生かす工夫を考えながら、表現することができる。	いろいろな作品のよさや楽しさを理解し、表現の工夫を感じ取ることができる。

5 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準【評価方法】
第1次 1t	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習計画表で全体の流れや点描画の技法について説明を聞く。</li> <li>・ 過去の作品を見て制作の過程や意図を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点描の美しさやよさに触れ、興味・関心をもち、取り組もうとしている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">関【観察】</p>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の制作計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選んだ写真をもとに白黒の配分を考え</li> </ul>

2t	・下描きをする。 (輪郭を点でとらえていく)	ながら、全体の輪郭をとらえることができる。 <b>想</b> 【作品・観察】
第3次 6t	・写真をもとに明暗（白黒の割合）を考えながら制作する。	・明暗（白黒の割合）を考えながら点描の効果的な表現を工夫することができる。 <b>創</b> 【作品】
第4次 1t	・自分の作品に対する感想・反省をまとめる。  ・友人の作品を鑑賞する。	・積極的に鑑賞活動に取り組もうとしている。 <b>関</b> 【観察】 ・いろいろな作品のよさや楽しさを理解し、表現の工夫を感じ取ることができる。 <b>鑑</b> 【自己評価カード・鑑賞カード】

関心・意欲・態度→**関** 発想や構想の能力→**想** 創造的な技能→**創** 鑑賞の能力→**鑑**

## 6 指導の実際

### (1) 目標

- 点描画の技法を効果的につかひ、明暗を考えながら作業をすることができる。

### (2) 準備・資料

【生徒】 筆記用具、極細油性ペン、塩ビ板

(・配慮事項, ◎個に対する手だて, ○評価)

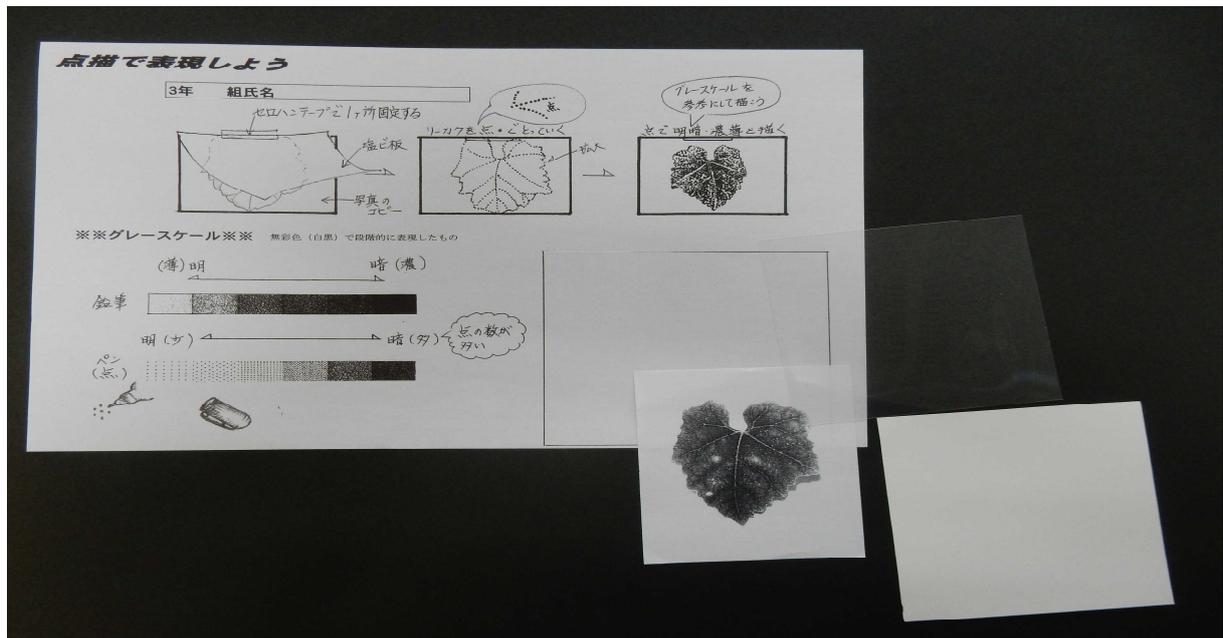
学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>風景全体の明暗（白黒の割合）を考えながら点を細かく打っていきこう。</p> </div> <p>(1) 学習内容の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明暗を考えて仕上げていく</li> <li>○ 極細のペンの扱い方</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点描の描き方，ペンの扱いについて再度確認をする。</li> <li>・画面の効果的な方法についても再度確認し，十分に注意を払って進めていくように指示する。</li> <li>・輪郭線にそって明暗がきちんと付けられるように個別に指示する。</li> <li>・ペン先の扱いに十分注意をするように話す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○明暗（白黒の割合）を考えながら点描の効果的な表現を工夫することができる。 <b>創</b>【作品】</p> <p>◎明暗の割合が理解できず作業が進まない生徒には白と黒のコンストラスの見本使い，個別に説明と作業補助をする。</p> </div>
<p>2 全体の明暗（白黒の割合）を考えながら，油性ペンで点を打っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペンの角度</li> <li>○点の大きさ，形</li> </ul>	個人	



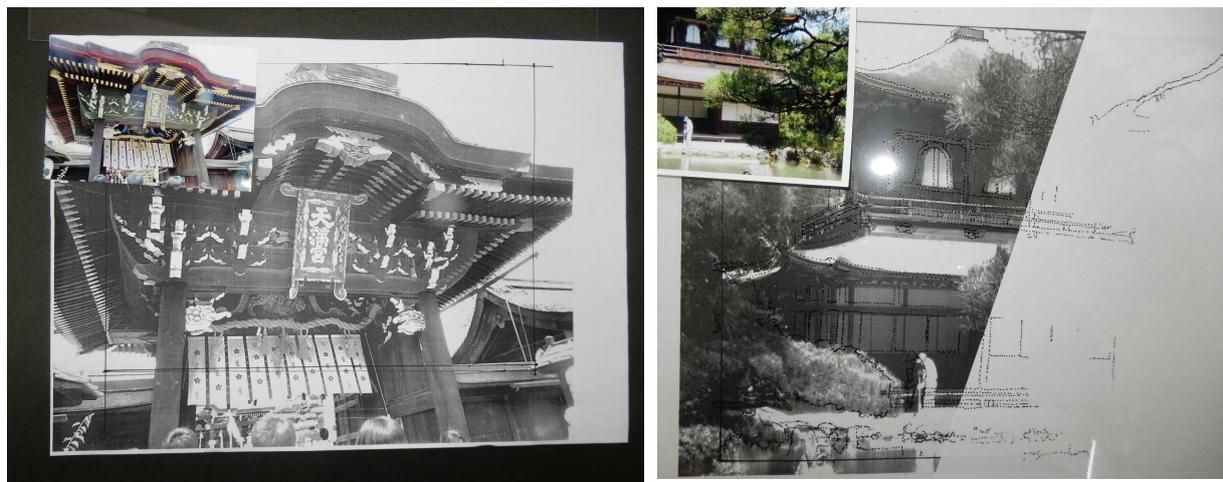
<p>3 修正方法についての説明を聞く。 修正方法（点の部分）</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック製の消しゴムを利用して消すことができることを知らせる。</li> </ul>
<p>4 本時のまとめをする。 (1) 計画表に進度状況と反省を記入する。 (2) 次時の活動内容を知る。</p>	<p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の計画にそって制作が進められたかを各自評価させる。</li> <li>次回も点描の作業をすることを知らせ、準備する用具について説明する。</li> </ul>

資料

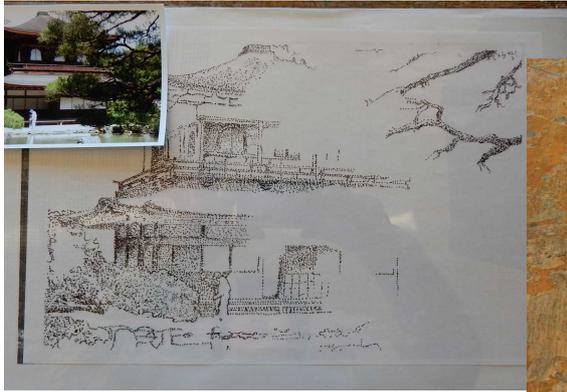
点描練習用ワークシート（点の正しい描き方と白黒の濃淡の表現について）



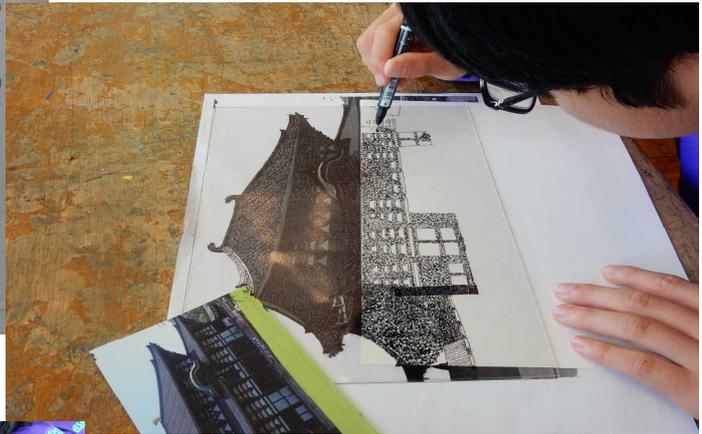
構成（印象に残った場面を切り取って構成する）



○輪郭を取り終えたら好きな部分から濃淡を表現していく。

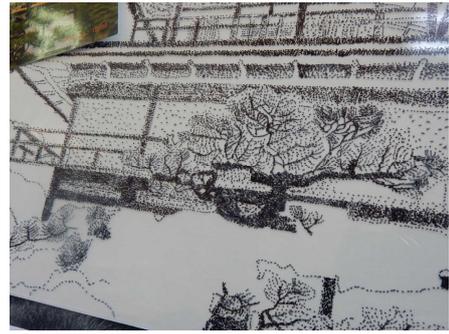
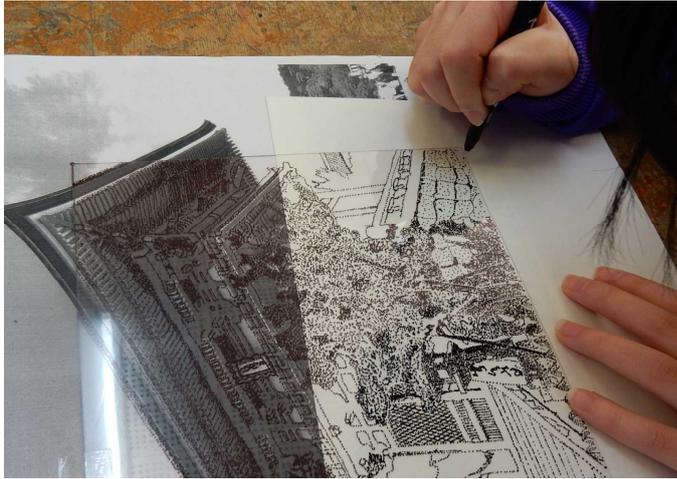


○写真を見て確認しながら進める。



○途中濃淡の表現を確認するために台紙（白色）を敷いて全体の調子を整えていく



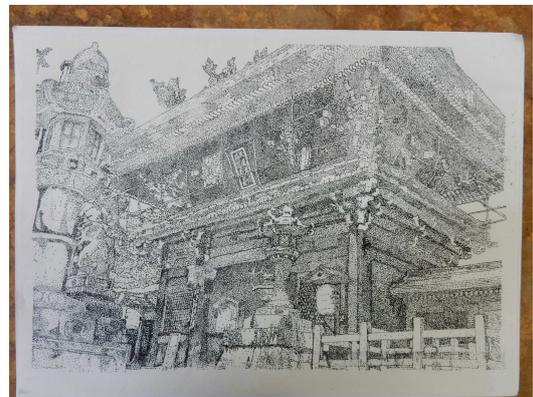


作品 1

○囲いの部分を拡大したもの



作品 (完成作品 2 点)



### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

生徒が表現したい内容（思い出の場所・風景）を絞って作業にスムーズに取り組むことができた。一人一人が意欲的に取り組み、自信をもって臨む姿が最後に行ったアンケートから理解することができた。

#### 2 課題

自己の内面のイメージを探り、表現する題材は適切な時期に取り組みさせることの大切さをあらためて研究を積み重ねて感じた。特に3年生の授業では多かれ少なかれ将来についての不安や自分への否定感に思い悩む時期に当たる。題材の設定は発達段階に合わせてということをも今後考えながらさらに興味・関心のもてる設定に取り組んでいきたい。

